

福島県PTA連合会会報
第45号_H10.02.28

PTAふくしま

第45号

福島県PTA連合会

編集/調査広報委員会

印刷/泉印刷所

分かっていますか 子どもの全てを



◁楽しそうに話している
子どもたち
(杉妻小学校)



◁「親子楽しみ会」より
(大木戸小学校)



◁地域に開かれた
学校づくりの
一環
(福島・平田小学校)

P T A 活動の1年



会長 山 岸 清

磐越道の開通により、「いわき」が大変近くなりました。県内の会員の皆様も県内各地が近くなったのと県土の発展を感じられたことと思います。会員の皆様が集合し真剣に討議したいわき大会の成功が県P連としての活動では特筆すべきと思います。最終日の講演で講師先生が体調をくずされ入院しましたが、一過性の症状でその日に退院され、次の日の仕事も無事に遂行されたと聞き一安心をいたしました。

日本P T Aにおいては、一年にわたり規約改正委員会で種々討議を重ね、昨今の社会の変化に適切に対応できる様、評議員会、常任幹事会の位置付、役員理事の資格、

実状に合わせた会員数のカウントの方法等の改正案が二月に行われた日本P T A史上初の臨時総会にて可決されました。

P T Aの課題は社会の変化の中で次々と出て参ります。殺人以外は何でもありの中で殺人が起こり、今、私達はこれらに真剣に取り組まなければならない時です。ナイフ、覚せい剤等の薬物にも十分注意をしなければなりません。

今年の安全互助シンポで「心の教育」ー子供と話そうーとして文部省の寺脇課長の御講演を伺ってきました。お役人らしくない自由な発想を持った方で、鹿児島県出身と伺い歴史認識等質問したいと思いましたが、時間がなく残念でした。一時間半のお話は熱意のあふれるもので大変短く感じました。

以下要点を書いてみます。子供たちに種々のストレスが積み重なっており、ガス抜きが必要である。それには子どもたちが自分の思いを話すことができる機会

や相手が必要である。しかし、子供の声は聞くが、いいなりにはないことが大事である。また、社会と先生とにズレがあるのではないか、学校をオープン化してその是正をしなければならぬ。それにはP T Aに期待するところが大きい。

偏差値で人間の価値は決まらない。学力だけでなくあらゆることに偏差値をつけられれば、問題はないが現実には無理である。

学校は学力をつける場であるが、家庭では学校での評価以外を重視して心の安全弁をつくってほしい。何の為に大学に行くのかという目的意識を持たせる為に、放送大学の番組を中学生、高校生にも見せてほしい等でした。

今、私ども親が変わらなければなりません。そのための学習の場としてP T Aがあることを認識し、活動のいっそうの活性化と事業内容の工夫と改善を図ることが今後の課題と考えます。

輝く受賞

① 文部大臣表彰

- 川南小学校父母と教師の会
- 郡山第二中学校父母と教師の会

② 日P表彰

- 《団体》 3
- 小坂小学校父母と教師の会
- 須賀川市立第二小学校

荒海小学校

父母と教師の会

《個人》 6

- 齋藤好榮(若松)
- 石崎孝一(須賀川)
- 渡部長一郎(南会津)
- 新村 章(達南)
- 佐藤 曉美(いわき)
- 上遠野 仁(西白河)

③ 東北P表彰

《団体》 8

- 福島第三小学校
- 父母と教師の会
- 田沢小学校P T A
- 小野新町小学校
- P T A
- 鹿島小学校P T A
- (相馬)
- 日立木小学校

幼稚園P T A

勿来第三小学校

父母と先生の会

行健中学校父母と教師の会
浅川中学校父母と教師の会

《個人》 4

- 松本一彦(天沼)
- 鈴木洋二(伊達)
- 安田守男(福島)
- 野地登久雄(いわき)



今、子ども達の

姿に思うこと



副会長 川 田 昌 利
(福島県小学校長会長)

受験のシーズンになると、決まっ
て思い出される母の一言がある。
昭和三十一年三月、福島大学合

格の知らせを手にした時の事だ。
だれよりも先に知らせたくて、田
んぼで堆肥積みをしていた母のも
とへ走った。合格の通知を見て、
母も小躍りして喜んでくれたが、

その直後に一言、「本当に良かった
なあ。これでお前も安心したろう。
ゆっくり手伝っていけ。」
仕事を打ち切って家に帰り、お
祝いのご馳走作りでもしてくる
のではないかと私の期待は、
見事に裏切られたが、母と話をし
ながらの二人きりの仕事も、妙に

楽しく、心充たされていた。今は
亡き母の、遠いあの日の一言が、
夕焼けの美しい空と重なって、私
の大切な宝物となっている。

今、子育てに自信が持てず、悩
む若い母親が多いという。しかし、
考えてみると、自信を持って子育
てをした親など、それまでにもど
れほどいたのだろうか。

私の母は、三十九才の時夫に先
立たれ、女手一つで四人の子を育
て上げた。苦労は並大抵ではなかつ
たろうが、特に高い教養を身につ
けていたわけでもないし、賢母と
いうのでもなかった。ごく普通の

女性であり母親であった。それで
も私達子どもは、我が子のために
懸命に生きるそんな母親の後ろ姿
に導かれて育ってきたように思う。

私も三人の子の親になったが、
特に自信を持って育ててきたつも
りなど微塵もない。ただ、何事に
も全力で立ち向かい、精いっぱい
がんばって、それでもうまくいか
なかった時、挫折し、人生に疲れ

た時、そんな時は、だめだったよ、
お父さん。」と、大手を振って帰っ
てきていいんだよという親の気持
ちだけは、子ども達に伝えるよう
努めてきたつもりである。

今、日本の子ども達の心は揺れ
ている。豊かなくらしの中にいて
も、心が充たされない。「僕たちは、
物やお金がそれほど欲しいわけじゃ
ない。在るがままの僕を、私を、
お父さんお母さんに、丸ごとしつ
かり受け止めて欲しいだけなんだ。

子ども達は、心の奥深いところ
で、そんな叫び声を発しているよ
うに思えてならない。今問われ
るべきは、小手先の方法論ではな
く、親自身の生き方や、親として
の無償の愛の姿そのものである。

積極的な母親の参加を



母親代表委員 藤 田 裕 子 (郡山)

P T Aの活動も年々女性の参加者が増え、
活発に意見が出されるようになりました。
男性は仕事、女性は家事育児と思われてい

た固定的な役割分担意識が改善され、男女
相互の協力態勢により女性も積極的にP T
A活動に係る時間が増えた事は、少子化時
代に伴う健全育成の重要性が見直されて居
ります現在、各自の情報不足を補う上でも
大変重要な事と思います。

連日のように報道されて居ります中学生
をはじめとする若年層が引起こす事件の数々
には、私ばかりではなく多くの皆様が心を
痛めて居られる事と思います。「うちの子に

限って」と我が子を信用していながら、ふ
と明日は我が身かも知れない等と思いを巡
らしては心切くなります。一見体は大き
く成長しても心の中は頑丈なものではなく、
ぶつかれば砕け散ってしまう硝子細工のよ
うなものと思いをかけ、暗く曇れば明るく
磨いてやり、目と目を合わせて話し合う事
が大切であると感じます。

我が子だけではなく周囲にも目を向ける
ようP T Aの活動を有効利用し、ネットワー
クを広げ次の世代を担う立派な若者の育成
に力を注ぐことが、今最も問われていると
思います。



副会長 石 澤 孝

県連合会を情報のハブに

え?と思ったことがあります。

「いじめ」関連の県教育委員会の会議に
出席したときのことです。P T Aでは「学
校」「家庭」「地域」の連携と言ってきました
が、そこではもう一つ「関係機関」とい
うのが入っていました。つまり警察関係で
す。テーマの性質から当然といえはその通
りなのでしょうが、私にとっては嘘をつか
れた思いでした。

この一年、中学生が主役となった衝撃的
な事件が相次いでいます。「関係機関」無し
には解決できない状況になってしまった様
にも見えます。しかしその前に、家庭での

基本的な「しつけ」をキチンとした上での
ことではないかと、自戒を込めて思います。
家庭教育の充実と安全な学校生活の確保
を目指して、まずは学校と家庭の連携と信
頼関係を構築することが大切です。

では、具体的にどうするか。県内には、
困難な問題を抱え、そして解決してきたP
T Aと学校がたくさんあります。情報を交
換し、ときには一緒に悩み模索していくこ
とで実現できるのではないのでしょうか。
その情報ネットワークの中心に県連合会
がある。そんな有機的な結合にしていけた
らいいのではないかと感じています。

◆◆◆ 地区だより ◆◆◆

伊達地区

「地区会長とつとの一年」

伊達地区小中学校PTA連絡協議会

会長 鈴木清幸



伊達地区PTA連絡協議会は、七町の小学校三十校、中学校八校で組織されています。

毎年、球技大会の開催、研究会の開催(町連P研究会との共催)といういろいろな活動をしておりませんが、その中で各校の校長先生や各町連P会長さんとの交流の機会も年二回行っています。

情報交換の場となる意味で、大切な意味をもつと考えております。

一例をあげますと、先般、町連P校長、会長会の席上で、教育予算要望書の町当局への提出時期について、例年は12月に行っていたのを、11月に提出したところ、12月の町議会に取りあげてもらったことができ、大変良い結果が得られたという報告がありました。

このように、各町連Pのかかえている疑問や問題提起、あるいは画期的な意見などが、お互いの話し合いや情報交換、また適切なアドバイスなどによって、よりよい結果や、それぞれの町連Pの行動力へとつながっていくのではないのでしょうか。

そういう意味において、交流会を今後ふやしていった方がいいのではないかと意見も多く出ています。これからは、地域をこえた一体感を持って、より深い信頼感と協力を高め、さまざまな問題をかかえる今の子供たちの健全な成長を図るため、精一杯努力していく必要があると考えております。

田村地区

「親子が共に活動するPTAを」

田村郡PTA連合会

会長 大方一豊



田村地区は阿武隈高地のほぼ中央、郡山といわき市に挟まれ、磐越道が開通し、交通の便はたいへん良くなりました。地区は、五十の単Pから構成されており、小規模校の多い地区です。

本地区の最大の行事は毎年八月に実施されている研究大会です。平成九年度は小野町において開催され、約三百三十名の会員が参加し、四分科会に分かれ、「会員の声を反映し、生涯学習の一環として活気あふれるPTA活動を推進しよう」という大会テーマのもと、親子が共に活動するPTA活動や行事などに熱心な協力が行なわれました。この大会においては、親子いっしょに活動する形態や奉仕作業など多くの活動について話し合いが行われましたが、奉仕作業は、学校の枠にとどまらず地域全体として、環境や自然を考える方向での実践が報告されました。

また、各町連Pでは独自に研究大会を開いており、活力あるPTA活動をめざしてどの町村でも熱心な協力が行われました。またこの町連P研究大会は、情報交換の場としても重要な役割を果たしています。

本地区は、七町村連Pより構成され、地域的に広範囲にわたるので、単P会長会や町連P会長の会合(三役会)などを通し、地区としてのまとまりを心がけており各種の行事や会議等での協力もスムーズに得られ、実りの多い年であったと思います。

東白川地区

「心豊かなたくましい子供の育成」を目指して(郡P東白川大会)

東白川郡PTA連合協議会

会長 陣野修一



平成九年度東白川郡PTA研究大会は、さる八月二十四日(日)に棚倉町文化センターを会場に開催されました。「二十一世紀を担う子供たちの豊かな心とたくましく生きる力を育むPTA活動を推進しよう」を大会スローガンに、第一分科会(組織運営)、第二(教養活動)、第三、第四(家庭教育)、第五(健全育成)、第六(養護教育)の六つの分科会に分かれて発表や討議が行われました。昼食時には、アトラクションとして、棚倉町観光協会のご協力により、婆娑羅童心隊による棚倉町六万石太鼓のすばらしい演奏がありました。また横浜国立大学名誉教授の間宮武先生による講演が行われ「子供をとりまく諸問題を考える、

「いじめ」と性問題を中心に」という演題で厳しい現在の教育環境の中で親や学校がどのように子供と向き合ったらよいかについて、示唆に富むお話を聞き取ることができました。文化センターという中学校以外の会場を使った初めての大会は、好評のうちに終了したように思います。



◆◆◆ 地区だより ◆◆◆

〔会津若松地区〕

「市連P活動を ふりかえって」

会津若松市父母と教師の会連合会
会長 小沼清一郎



当連Pは、十八校の小学校と、九校の中学校そして会津養護学校で、構成されています。

当連Pの活動のひとつに、教育委員の方々と教育長、教育委員会
の先生方にご臨席いただいていたの懇談会を、年度中二回実施しています。

今回は「厳しい人生を乗り切るために」という演題で、佐々木誠先生の話をお聞きしました。その中で自分の父が事業経営に失敗し、破産、その後まもなく他界、母は病弱。生活を支えるために高校進学を断念。そして「生きるために働きながら独学で国家試験に挑戦」五年で五つの資格を取得したそうです。二人の息子さんは自治医科大学に合格、現在兄弟で県立南会津病院に内科医として勤務しているとのこと。そんな話を聞いて、会員は皆感銘した九十分の講演会でした。その後懇親会では、各単Pで抱える問題等活発な意見が出され熱気に満ちた会となりました。子を持つ親、いわゆる私達PTA会員の生涯学習時代における接着剤としての役員の役割には、大きなものがあると考えました。

PTA本来の目的達成のために、いつそう活動する必要性を強く感じております
PTA活動の活性化のためがんばって行きたいと思

〔両沼地区〕

「からむし織の里で研修」

両沼地区PTA連絡協議会
会長 生江正雄



両沼地区PTA研修会は、からむし織の里昭和村公民館をメイン会場として、会員約三百余名の参加のもと、大会テーマ「21世紀を担う子どもたちの豊かな心とたくましい生きる力を育むPTA活動を推進しよう」に添って、五分科会に分かれて討議しました。

私も各分科会の様子をつぶさに見て回ったところ、各分科会とも「組織の活性化」、「子どもに対する親の姿勢」、「いじめや不登校の要因」等各学校の共通的な問題について活発な意見交換がなされておりました。
また、講演会の講師は、昭和村の特色、人生の体験談等をお話してくださる講師をと考え、「からむし織りの織り姫」にスポットを当て、昭和村当局のご支援により「大久保裕美」先生に決まり、「私の好きな道」と題し、ご講演を頂きました。

先生は、短大を卒業後二年間会社勤めをしましたが、高校時代に祖母の一枚の布に魅せられて、染色の道に入り、タンザニアで染色の指導に従事、日本に帰郷後は、生活に密着した仕事をしたいとの目標とからむし織りの奥の深さに感銘し、現在一人故郷を離れて技術の向上とからむし織りの普及に努めています。この講演の中で、私たちは、自分の目標を設定し、そのことに向かつて努力することの大切さを学んだことを申し添え両沼地区研修会の報告とさせていただきます。

〔双葉地区〕

「広報紙での交流」

双葉郡小中学校PTA連合会
会長 小黒敬三



双葉地区では、地区内校の広報紙の交流を重点的に取り上げました。それは各学校の広報紙に目を通すことにより、自分達の活動にも参考になり、広報紙の作り方やそれ自体の有効活用につながるの事からです。運営に関しては、会議の回数を少なくする事や各学校の役割、ローテーションの整理など予めわかっている事項については時間をかけないなど気を遣いました。郡PTA研究大会では、

- 親子ふれあいコンサートの事業を通じた家庭教育の重要性と教育力の高揚について
- 校内緑化活動を通じて会員の参加意識の高揚と活性化を図った組織運営について
- 教養クラブ、家庭教育学級、研修視察などの活動を通じた研修活動のあり方について

以上三つの分科会で研究協議をしました。この大会の前後を通して話題になったのは、もう少しセレモニー的なところを少なくできないか。県P指導者研修会など共催するなどして簡素化できないか、その分各委員会同志や母親リーダーの交流会などをやってほしいとの声も聞かれ、会員の関心の高さが伺われました。また会長個人として今年には郡P大会と全国書写書道大会の会場校となり、先生も生徒も父兄も大忙しの中、日常の活動もしっかり協力頂き大変助かりましたが、本音を言うと学校には気持ちと時間とお金に余裕があった方が良く感じた一年でした。

単 訪 問

「心豊かたくまじく子どもを育てるためのPTA活動」

《東和町立針道小学校PTA》

PTA活動は、ともすると各専門部の計画した行事を例年どおり実施しがちである。しかし、本校においてはそのような活動の他にPTA全会員が「心豊かたくまじい子ども」を育成するため、学校・家庭・地域社会の連携を図って次のような活動を展開している。

◆一声かけ運動

「おはよう」「歯みがいた?」「勉強した?」など、親より子どもへ一声かける活動を実施している。親子のコミュニケーションを図り基本的

「全戸がPTA会員」

《石川町立中谷第二小学校父母と教師の会》

本校は児童数七十三名、児童の通う家庭四十六戸、戸数百八十の一区域との結びつきが強く、児童のいない家庭もPTAの準会員となっています。そして、会費を納めるだけでなく、奉仕作業や運動会を学校と合同で行っています。

PTA活動は大変活発で、総会や各種委員会・授業参観など百%近い参加があります。また、役員は父親が六割、母親が四割とバランスのよい構成になっています。

な生活習慣を身につけさせることを目的としている。活動の様子については、学年PTAの折に反省・評価を加え徹底を図っている。

◆ふれあいホームステイ

ホームステイ先の友達の家とのふれあいや交流を通し、礼儀作法や思いやりの心、つよい心を育てることを目的で実施している。子ども達にとつて、今までの自分の生活習慣や生き方を見なおす良い機会となっている。世話になる世話をする家庭どうしの交流にもつながっている。

各種委員会の活動では、総務委員会は会報発行や廃品回収を行っている。児童も一緒に参加し、益金は課外活動の資金として有効に活用しています。補導委員会は、通学路点検や看板作成・設置、除雪作業等を行い、厚生委員会は給食試食会や軽食作り講習会を行っています。高学年の児童も参加し、大変好評を得ています。教養委員会は「家庭の日」

絵画募集や教養講座を主催し、環境整備委員会は草刈り等を主とした環境の整備に力を注いでいます。

◆月1回の授業参観

開かれた学校経営の一環として地域住民や長寿会へ学校の様子を知っていただく機会として設定しているが、PTAとしても積極的な協力体制をとっている。

今後と

もPTA活動の原点に立ち返り創意ある活動を工夫したい。



平成三年に地域の人々の強い要望で、現代風の木造平屋の校舎と広い校庭が完成し、九年には体育館とプールが新築され他に誇れる立派な学校になりました。建物だけでなく、中

身もさらに充実するようPTAとして、学校教育活動への全面協力を行っていくと考えています。



第21回 子どもの災害事故防止コンクール

第21回子どもの災害事故防止習字・ポスター展の審査は去る二月三〜四日に行われ、優秀作品が決まりました。今年は習字一七四校から二八八八点、ポスター七六校から四一七点の応募があり、審査には次の各氏があたりました。

(敬省略)

習 字

▼小学校

◇最優秀賞《一年》佐藤美佳(美山小)

《二年》渡辺美咲(安達・白岩小) 《三年》河野さやか(須賀川二小) 《四年》酒井絵美(伊南小) 《五年》佐藤令奈(赤井小) 《六年》深谷のぞみ(五箇小)

◇優秀賞《一年》遠藤賢志(山都二小) 五十嵐みるき(鶴城小) 高木三幸(泉小) 《二年》松本里美(美山小) 佐川真吾(五箇小) 菊池優也(五百川小) 《三年》佐藤由希(江名小) 伊藤めぐみ(大野小) 吉田麻奈(泉北)

七 佐藤美佳 (美山小1年)

元気 酒井絵美 (伊南小4年)

小) 金田智樹(伊南小) 山口 舞(箕川小) 《四年》平館亜紀(二本松北小) 五十嵐梨枝(鶴城小) 前林由佳子(杉妻小) 齋藤優季(五箇小) 渡辺彩華(五百川小) 《五年》稲田仁美(鏡石小) 遠藤麻菜美(綴小) 高橋沙織(川南小) 佐藤麻未(永盛小) 吉田安喜子(須賀川一小) 《六年》矢沢紫(鶴城小) 根本麻紀(磐崎小) 木村友紀(及川小) 作山勝一(永崎小) 小林めぐみ(謹教小)

◇優良賞《一年》佐藤宏亮(阿武隈小) 岡部侑美(山白石小) 齋藤優子(南向台小) 橋本菜加(五百川小) 《二年》久住友紀(南向台小) 大沼春香(猪苗代小) 土屋ミキ(下太田小) 北村航平(双葉南小) 湯田麻美(田島小) 《三年》伊藤方美(永崎小) 佐川鮎香(五箇小) 渡辺 学(小山田小) 関根愛美(大東小) 武藤雄大(上太田小) 青木望実(綴小) 片桐恰子(五箇小) 《四年》佐藤 舞(浪江小)

「全員参加を目指して」

《大沼郡新鶴村立新鶴中学校父母と教師の会》



新鶴中学校のPTAは「全員参加の活動」を目指して活動をしています。五つの専門委員会と学年委員会があり、それぞれに特徴のある活動をしています。専門委員会は各地区委員が分担して委員になり運営しています。会報の発行や、研修、講演会、学校の環境整備、村の運動会への協力、マラソン大会協力、祭礼等での指導等、本部との協力若しくは独自で活動を進めています。学年委員会は各学年から四名の委員が選出され、各学年

「会長、六年生の娘さんの担任の先生ですよ。」いやあ、これは、はじめまして。学校のことは奥様任せだった新会長の担任との出会い。この会話から本年度のPTA活動が始まりました。

「全員参加」を目標にしています。が、まだまだ委員や本部にかかる負担が多く、全員に参加にはなっていないのが現状です。これからますます生徒が減少することが考えられ、今後の委員会活動をどうするか考えていかなければなりません。役員会や総会、委員会のほかに今年度から地区懇談会を始めました。今までは、学校に集まって話しをしていましたが、参加する人が減ってきてしま、なかなか全員が参加する

ことはありませんでした。それならば、本部や学校のほうから出かけていって、話を聞いてもらい、逆に普段聞けない話を聞いてみようというところで始めました。

全九地区で、少人数で話し合い好評のうちに終了することができました。本部、学校と地区の一般委員の話し合いが今までなかったこともあって、来年以降も続けて欲しいという声が多く聞かれました。

今後このような懇談会をできるだけ多く持つ、会員の意識を高めていくことがますます必要になってくると思っています。このことが「全員参加」に向けての一助になればと考えています。

わが校の名物会長



北会津村立川南小学校父母と教師の会
会長 渡邊 栄 司氏

「学校のこともPTAのことも全く分かんねんだ。皆さん助けてくんなしよ。」なんとも頼りないような新会長。年度当初のPTA事業は目白押しというのに大丈夫かしら。その上「優良PTA」としての推薦を受けて提出資料を整えなくちゃならないというの。

員を動員して、日中といわず深夜まで奮闘一番、数日間でもとめ上げてしまった見事な手腕。まさに必殺仕掛け人ここにありである。言うことがまたふるっている。

賞することができました。会社の仕事が超多忙になった秋口でも一言の愚痴もなく、本会はもとより村連Pの会長として事業を推進するかたわら、村役場・公民館等の会長充て職の会合にも欠かさず出席する精勤ぶりをまのあたりにしては、役員も会員も一生懸命にならざるをえません。

「PTAってこんなに忙しいのがよ。おれの趣味でできなくてストレスたまんなあ。みんなどうだ？」 たまった表情などみじんも見せずというしたたかさ。おかげさまで「優良PTA文部大臣表彰」を受

待する年度末となりました。川南小学校長 小林 清

「PTA副会長 佐々木 富士子



▲ 本郷真大 (平一中1年)

ポスター

- ▼ 小学校
- ◇ 最優秀賞 《一年》平出真起子 (喜多方二小) 《二年》近藤桃子 (浅川小)

- ▼ 中学校
- ◇ 最優秀賞 《一年》本郷真大 (平一中) 《二年》伊藤絵美 (郡山一中) 《三年》青砥恵子 (矢祭中)
- ◇ 優秀賞 《一年》松本奈菜 (原町一中) 《二年》渡部名央子 (荒海中) 《三年》宍戸良子 (二本松一中)
- ◇ 優良賞 《一年》平館祐佳 (二本松一中) 《二年》佐藤愛子 (平一中) 《三年》佐藤純子 (郡山一中)

- 高橋香織 (謹教小) 伊藤沙織 (山都二小) 永山由里絵 (川西小) 山口雄士 (高郷一小) 羽田康志 (杉妻小) 星 敬太 (田島小) 《五年》大宮 葵 (猪苗代小) 馬上有華 (泉小) 穂積昇平 (謹教小) 原 美里 (千里小) 吉田有希 (御厩小) 武田百恵 (大堀小) 鈴木麻由 (二本松北小) 《六年》佐藤里美 (杉妻小) 松本奈緒美 (二本松北小) 塚原理沙 (田島小) 本田裕子 (玉井小) 佐々木藍 (平野小) 渡部奈美 (伊南小) 藤岡 彩 (岩江小)

- ◇ 優良賞 《一年》林 幸弘 (荻野小) 《二年》竹俣菜耶 (門田小) 《三年》相沢由梨香 (喜多方二小) 《四年》横川 舞 (野田小) 《五年》面川 茜 (鏡石小) 《六年》阿久津拓二 (門田小)



▲ 鈴木さとみ (須賀川三小3年)



▲ 水野麻美 (湯本三小3年)

- ▼ 中学校
- ◇ 最優秀賞 鈴木さとみ (須賀川三小3年)
- ◇ 優秀賞 近内亜沙美 (須賀川二小1年)
- ◇ 優良賞 小坂橋祐子 (猪苗代中2年)

安全互助会から

事故件数

(1月末現在)

月	傷 害 (父母)	賠 責 (父母)
4~10	1,670 (104)	32 (11)
11	205 (36)	8 (2)
12	237 (21)	11 (0)
1	172 (18)	4 (1)
計	2,284 (179)	55 (14)

※ 学童死亡件数……7 (昨年比1減)

給付金の請求もれはありませんか

過日、学童・PTA会員傷害事故管理台帳の提出を依頼したところでありますが、次の事項について再確認の上連絡ください。

1. 未請求事案がないか。

特に、3月末まで治療が終了する見込みがなく、請求できない事案については、県事務局に文書で提出してください。

2. 補償期限内に忘れずに請求を

長期にわたって治療を継続している例がありますが、補償年限は2年以内ですので手続きを忘れずにお願いします。

なお、その際、県事務局に問い合わせてください。

春の全国交通安全運動

「うんてんしゅさん ちいさなぼくが みえますか？」のスローガンのもと、平成10年春の全国交通安全運動が展開されます。

本会は、この推進団体の一員となっておりますが、それにかかわらず一県民として、交通事故の絶無を目指して、歩行や運転などに十分注意していただきたいと思います。

● 期 間 / 平成10年 4月6日(月)~15日(休)

● 運動の重点

- (1) 子どもと高齢者の事故防止
- (2) シートベルトの着用の徹底
- (3) 自転車利用者のマナーアップ

今年度の学童死亡事故7名のうち、交通事故での死亡者は6名となっております。ご冥福をお祈りするとともに、死亡事故の絶無を皆様と誓いたいと思います。



(編集後記にかえて)

「またもや衝撃的な事件が発生しました。ごく普通」の生徒がナイフを持ち歩き、教師に遅刻したことを諷められてカッとなって刺した。従来は暴力を振るう生徒は、ツツパリグループが中心であったが、今はボーダレス化して、「地雷型」(という学者がいる)。「ムカつく」「キレる」子どもが多く誰もが爆発可能性を持ち、踏んでみて初めて「エッ」と気づかされるケースが殆どという。

今、多くの子ども達の心象風景が殺伐としていられると言われる。大変な役割ではあるが、何故このような事件が起こったかを、親、教師が一丸となって原因を調べ、子ども達への対応を考えるべきであろう。

ある人は「PTAもシンクタンクと知識・経験の蓄積を」と主張している。これは、公的な各種会合の場に代表が参加し、個人の認識のレベルで発言するのではなく、理論武装をしなくてはということであろう。

今こそ私たちは、可能な限り共通の親像・家庭像・子ども観等々をしっかりと理論的に持ち、実践することが課題であると考え、それも一人でなくP組織を上げて(事務長)

〈福島県PTA安全互助会提携損保〉

共栄火災海上保険相互会社

東北第3支店・福島支社 〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル内
TEL 024-523-3507

郡山支社 〒963-8023 郡山市緑町8-7
TEL 0249-22-3606

会津若松支社 〒965-0871 会津若松市栄町5-22 朝日生命ビル内
TEL 0242-24-6615

いわき支社 〒970-8026 いわき市平字大町7-1 平セントラルビル内
TEL 0246-23-7202